

委員から出された意見

第8回PI外環沿線会議

外環の必要性について

- ・費用対効果を計算する際、東名以南に関する条件を教えて欲しい。(江崎委員)
- ・便益も費用も、東名以南は計算の仮定条件として入れているが、あくまでも計算する時は、外環の関越から東名までの区間を対象に算出している。(山本委員)
- ・首都高の交通の中で、外環と関係のある交通は15～20万台程度だと聞いたことがある。外環に加えて中央環状線等の道路を利用することを考えると、外環の交通量は予測よりも少ない2,3万程度になるのではないか。(濱本委員)
- ・首都高の交通量は全体で約100万台と記憶しており、首都高3号線で大体10万台、4号線で約9万台の交通が流れており、それらの交通が外環に転換したり、環八の交通が転換したりすることで、外環の交通量は7～12万台程度になると予測している。(山本委員)
- ・外環埼玉区間の練馬区の都計審での当時の建設省の説明では、交通量は一番低い方が7万台で、後は9万台という数字だった記憶がある。(武田委員)
- ・宿題になっていることが何点かあるが、いつ報告があるのか。(菱山委員)
- ・宿題が出たことは認識しており、現在、調べている最中であり、次回報告する。(山本委員)
- ・三鷹市の大沢で年2回程、環境調査をしている。交通量が多く、緑地帯の少ない地域では、NO₂が0.06ppm前後と高い値であり、大気は樹木などの緑被率の影響が大きい。【提示資料補足説明】
- ・NO₂とSPMは、もう少し広範囲で沿線に直角方向も調べる必要である。【提示資料補足説明】
- ・自動車による大気汚染を消す意味で緑被率を高めることは、地域にとって大事である。【提示資料補足説明】
- ・排気筒から放出される排気を清浄化するための施設を導入すべきである。【提示資料補足説明】
- ・包蔵地下水の影響調査として、外環道と直行する方向のボーリング調査を追加実施してみてもどうか。【提示資料補足説明】
- ・地下水への影響と対策等の事例があれば、資料を提供してほしい。【提示資料補足説明】(樋上委員)
- ・世田谷では、ジャンクション周辺の調査箇所が少ない。環境調査をもっときめ細かく行って欲しい。【提示資料補足説明】
- ・CO₂削減のためには、巨視的な対策が必要ではないか。【提示資料補足説明】
- ・世田谷の場合、古多摩川は水量が非常に多く、水被害を住民が大変心配している。【提示資料補足説明】
- ・環境調査にはハチクマ、スッポン、イタチがいるとあるが、世田谷の資料にはない。逆にフクロウ、アオバズク、カッコウ、ヒガシカワトンボが環境調査の結果には載っていない。生態系はもっと厳密に、かつ慎重に調べていただきたい。【提示資料補足説明】
- ・環境アセスメントの事前に、環境の影響範囲や許容範囲の基準を示してほしい。【提示資料補足説明】
- ・環境アセスメントの調査主体と審査主体を変えるべきである。【提示資料補足説明】
- ・環境への影響はできるだけきめ細かに、慎重に調べて、外環計画でどのような影響があるのかわかりやすく示さなければならない。【提示資料補足説明】(栗林委員)
- ・環境に関してはできるだけきめ細かく、慎重に取り組んでいかなければいけない。
- ・既存の調査結果や、我々が調査した結果、地域ごとの意見を聴く会でも指摘を受けており、それらをきめ細かく把握して、今後、予測評価ということになれば、しっかりやらないといけない。
- ・緑被率に関しては、環境施設帯をしっかりとつくらないといけないと思っている。工事で掘り起こした所の地上部は、場合によっては緑にすることも考えられ、地域の方々と話しながら、充実をさせていきたい。
- ・大気の浄化に関してはしっかり勉強しており、現在実験中の成果を使っていけるのかどうかを検討していく。
- ・深層地下水は基本的に西から東に流れておるが、三鷹や調布では水源用として深層地下水をくみ上げているので、外環沿線では逆方向に流れている傾向にある。影響の程度をしっかりと予測評価をしていきたい。
- ・地下水への影響と対策等の事例について、京都の地下鉄の資料や名古屋高速の事例は提供していく。
- ・レッドデータブック等に記載されているものを注目される種として整理している。フクロウやアオバズクも観測しているが、注目される種として整理していないので環境の現地観測結果概要版資料に入れていない。
- ・化石燃料を減らして車を運転しないことは温暖化に効果があるが、食料品や日用品等のほとんどは車で運んでおり、急激に自動車利用をなくすわけにはいかない。道路の行政としては、温暖化対策の一つとして、交通の流れを円滑にすることで排気ガスを少なくすることを考えている。(山本委員)
- ・立川面のあたりで井戸を使っている人に話を聞いたところ、地下水は成城の方から流れているということであった。掘割区間になる区間への影響が心配である。
- ・地下水の流れを知るために、井戸を使う方にヒアリングすれば参考になるのではないか。(江崎委員)
- ・野川の川底の下からの湧き水もかなりあるようなので、地下水の調査も慎重にやって欲しい。(橋本委員)

- ・野川と国分寺崖線の間、何も対策をせずに外環をつくってしまうと、大きな影響が出てくるだろうということで、地下水の流れを十分に把握した上で、予測評価をしていきたい。
- ・環境調査のデータ以外にも、いろんなデータを我々は把握しているが、不足分については追加しないといけない。
- ・野川の川底からの湧水に関しては、野川の流量調査の中で提示しており、野川の底からどのぐらいの量の水が出ているのかということも把握している。(山本委員)
- ・川底の地層の中を流れている水も、川の水の一部と解釈したらいいのではないか。(樋上委員)
- ・三鷹の野川の大沢にはスッポンが存在しているようである。(樋上委員)
- ・大気質観測について、飛鳥山トンネルの事例の観測地点は換気塔から離れた所ようだが、換気塔の近くを調べたデータはあるのか。(江崎委員)
- ・観測地点がどこにあるかは、今は把握していないので、調べた上で回答する。(山本委員)
- ・換気所について、排ガスが拡散し薄められるという知見、論拠はあるのか。水平的、垂直的にどう拡散するのか。(板垣委員)
- ・予測評価する際は、どのぐらい拡散し、どこでどの程度影響が出るかなど具体的に把握する。解析方法等については、資料を提示していきたい。(山本委員)
- ・換気所付近の人は不安がかなり強い。化学的根拠を含めて影響を明らかにしてほしい。(板垣委員)
- ・名古屋の事例で地下水対策をした場合、上流側で地下水が低下しているとあるがなぜか。(菱山委員)
- ・名古屋の事例は、実際の測定事例であり、論文があるので詳細を調べて回答する。(山本委員)
- ・資料に記載している地下水の流れを保全する工法はどのような事例が根拠となっているのか。(樋上委員)
- ・名古屋の高速などで実際にこの対策工法をとっており、それを模式的に示している。(山本委員)
- ・私どものNO₂、CO₂測定結果では、いずれの地区も昨年6月より平均ppmがアップしている。ディーゼル車規制や浄化装置をつける等のいろいろ努力をしているが、一向によくなっていない。住んでいる環境は徐々に悪い方向に流れているという現実を認識して、議論してほしい。(渡辺委員)
- ・地下水に関して、地下鉄の大江戸線、環七の雨水の貯水管等、都内で大深度を活用した事例があれば、その工事前、工事中、工事後のデータ等を公開してほしい。(濱本委員)
- ・環七地下河川や大江戸線はかなり深い場所にある。関連して地下水のデータがあるかどうか調べてみる。
- ・ディーゼル車規制は、主にSPMを低減することを主眼においた対策であり、沿道の排ガス測定局では、SPMの年平均は対15年度比で13%ほど低下し、さらに対13年度比では29%低下している。(邊見委員)
- ・NO₂等はいろいろな要因で変動するので、天候等の影響なのか、あるいは本当に改善されないのかは、少し長期的にみないとわからない。(山本委員)
- ・ディーゼル車規制によって燃料の噴射圧力を高めたことで、SPMよりも細かいナノ粒子というものが出ているのではないかと専門家が言っているようなので、詳しく調べていただきたい。(江崎委員)
- ・環八の換気塔等の追加調査を行っているのか。長期的に行わないと、結果は出ないから、その辺は出せる資料があれば出してほしい。(濱本委員)
- ・環八・井荻トンネルで元素状炭素を測定した結果、ディーゼル車規制による効果とで、環八・井荻トンネルでの測定値は15年度比で28%減と、13年度比で68%減であり、効果は上がっている。(邊見委員)
- ・最近起きた東北新幹線のトンネル事故の概要がわかれば、参考までに知りたい。(橋本委員)
- ・東北新幹線のトンネル事故は、工法がNATMであること、非常に浅いところを通っているトンネルであること、トンネルの上の水田に水を入れていたこと等の要因で構造が崩れたと記憶をしている。詳細が必要であれば、紹介できるものがあれば紹介する。(山本委員)
- ・本日の会議を欠席している人もいるので、環境問題について継続的に議論してほしい。(濱本委員)
- ・高齢社会白書では、10年後に4人に1人が65歳以上、35年後には3人に1人が高齢者と発表されているが、高齢者が増えても、外環は果たして必要なのか。(岩崎委員)
- ・将来の高齢人口の増加や車両増加を考慮して予測している。人口については、中位推計を用いて将来交通量を算出しているが、低位推計の場合の感度分析もしており、将来予測についてはある程度の幅を持って必要性を議論していただきたい。(山本委員)
- ・障害者白書では、国民の5%が現在高齢化で障害にかかっているとのデータが出ている。私は将来交通量が減るのではないかと考えている。(岩崎委員)
- ・高齢者や障害をもたれた方が移動するには、どうしても自動車に頼ることになるのではないかと。(山本委員)

オープンハウスと意見を聞く会について

- ・オープンハウスと意見を聴く会での住民からの意見は公表すべきである。(濱本委員)
- ・意見を聴く会の概要をホームページで公表していることは十分承知しているが、ホームページを利用できる人と利用できない人がいる。利用できない方にも情報が目に触れるような形を考えてほしい。(菱山委員)
- ・報告をしてほしいということであれば、説明させていただく。(山本委員)